

郷土に興味・関心をもつ生徒の育成を目指す社会科学習指導の在り方
- 幕末・維新期の郷土の先人の学習を通して -

鹿屋市立高隈中学校 市村 哲二

1 日時及び対象者

日時	平成 14 年 6 月 12 日 (水) ~ 20 日 (木)
対象者	鹿屋市立高隈中学校 2 年生 男子 6 人 女子 6 人 計 12 人

2 実証授業

单元名 「明治維新」

3 研究主題設定の理由

本県は幕末・維新期に、日本の近代化に大きく貢献した優れた人材を多く輩出した。このことは、現代のこの時代に鹿児島で生きる私たちが誇りにできることであると考え。これまで本県では、彼ら先人の業績や生き方などについて様々な本が出版され、紹介がなされてきた。そのことにより、生徒たちも小学生の頃から様々な書物などに触れることで、何らかの影響を受けてきたと推察することができる。特に西郷隆盛や大久保利通については、小学校での人物学習の成果からか、生徒たちの認識度がかなり高いことをこれまでの授業場面で確認することができた。

学習指導要領では、歴史的分野の目標(2)において、「国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。」としている。歴史は人間が作りあげてきたものであり、社会に影響を与えた人物が果たした歴史的役割について考えることは大きな意味をもつ。さらに、そのような人物が自分たちの生まれ育った郷土から出たということを考えれば、郷土や私たちが生きる現代との関連において学習していくことは一層深い意味をもってくる。なぜなら、そのことが生徒たちの郷土や歴史学習への興味・関心を引き起こし「郷土について知ろう」「歴史をもっと知ろう」とする意欲を高めることにつながると思われるからである。

以上のことを念頭におきながら、幕末・維新期の学習指導に当たっては、教科書の内容に基づき、いろいろな人物を紹介するなどして、教育実践に努めてきた。しかし、実際これまでの自分の授業を振り返ると、生徒の興味・関心を引き起こす内容ではなかったように思われる。その理由としては、教科書の知識詰め込み的な指導に陥り、明治の変革をもっとダイナミックなものとして生徒に捉えさせることができなかつた点や、郷土の先人を通して郷土への興味を呼び起こそうとするねらいが不十分であったことなどが挙げられる。また、あまりにも教科書の内容だけに固執しすぎ、広い視野での教材研究がなされていなかったことも考えられる。

そこで、授業で学習する基礎的・基本的な内容を踏まえながらも、当時鹿児島のみならず世界との関連性をもち、さらに明治日本の国家形成に貢献をした郷土の人物を取り上げたら、生徒たちの反応も違ってくるのではないかと想定した。そして、その中でも特に一人の先人に焦点を当て、その人物が果たした歴史的役割や時代背景、また郷土や私たちが生きる現代とのかかわりを考えていく授業を構築していけば、生徒が今まで以上に郷土や歴史学習への興味・関心をもってくれるようになるのではと考え、本主題を設定した。

4 歴史的分野「明治維新」の学習における郷土の先人の教材化

「薩摩藩英国留学生」と日本の近代化とのかかわり

幕末・維新期の郷土の先人で、世界との関連性をもちながら日本の近代化に貢献し、さらに生徒の学習意欲を喚起できそうな人物として浮かび上がってきたのが、「薩摩藩英国留学生」の人物たちである。

彼らについては、右の写真の像が有名であり、新世紀カリキュラム審議会（答申）が例示している「鹿児島における郷土学習の基礎・基本」に取扱事例として掲載されている。

しかし、事前アンケートの結果で「寺島宗則」を生徒が誰一人知らず、また、「森有礼」や「五代友厚」についても認知度が低いことが分かった。そのことから、留学生たちの構成や人柄、留学後の業績などについては生徒たちにあまり知られていないのではと予想した。もちろん、調査の対象が高隈中の生



徒ではなく、先人に割と身近な鹿児島市内の生徒であ
写真 「若き薩摩の群像」銅像（「若き薩摩の群像」門田 明著 春苑堂出版より引用）
ったら違った結果も予想されると考えられる。例えば認知度が高いにしても西郷・大久保ほどとは考えられず、彼らのたどった数奇な人生を知ることは、生徒たちを引き付けるに十分であると考えた。中でも私が着目したのが、以下の人物である。

松木 弘安 …明治国家において外務卿となり、不平等条約を解消することに尽力した。

（のち寺島宗則）

五代 友厚 …商業の発展に尽力、大阪株式取引所設立。渋沢栄一と比較される実業家。

森 有礼 …初代文部大臣。学校制度の確立に尽力するが、のち暗殺される。

磯長 彦輔 …アメリカのカリフォルニアに渡り、ぶどう栽培で成功、ぶどう王となる。

（のち長沢 鼎）

村橋 直衛 …北海道の開拓にかかわり、札幌冷製麦酒生みの親となる。突然、開拓使を

（のち村橋久成） 辞任し、放浪の旅に出る。

（「若き薩摩の群像」門田 明著 春苑堂出版より引用）

上記の人物たちは、幕末の 1865（慶応元）年に当時の藩命により海外へ渡航をしてイギリスに留学、帰国後、明治日本の近代化に大きく貢献した人々である。小単元「明治維新」の指導計画を作成するに当たって、教科書には掲載されていないが歴史的に大きな役割を果たした彼らを扱うことで、日本の近代化をとらえる学習課題が達成されないかと考えてみた。例えば、小単元の 3 時間目に当たる「明治初期の外交」では寺島宗則を紹介し、当時の外交において郷土の先人が果たした役割について気付かせるようにする。そして、4 時間目に当たる「文明開化の時代」では森有礼を紹介し、学校制度の整備と郷土の先人とのかかわりについて気付かせるなど、それぞれの学習内容に合わせて先人を扱うことを仮定してみた。しかし、それだけでは人物の紹介にとどまり、単なる雑学的な内容になる心配も予想された。そこで、小単元の学習に入る前に、ある一人の先人を追究していくことを決め、その人物を生徒たちがグループでそれぞれ追究していく形をとりながら、教科書の内容をおさえ、なおかつ前述の郷土の先人たちを紹介していく。そのようなやり方で、日本の近代化の内容に迫ることはできないだろうかと考えた。

5 村橋久成の教材化

ここで追究していく先人として選定したのが、前述した五人のうちの一人名である村橋久成である。この人物を選んだ理由としては、1 ページに提示した先人の選定条件に合致する人物であり、また資料がインターネット等で比較的探しやすいという点があったからである。彼の生涯を簡単にまとめたのが、以下の記述である。



写真 村橋 久成 像

(上の写真と右の年譜は、「夢のサムライ」西村英樹著 文化ジャーナル鹿児島社より引用、抜粋)

村橋 久成 年譜

- | | |
|----------------|--|
| 天保 13 年(1842)年 | 薩摩藩加治木島津家一門の嫡子として出生 |
| 慶応 元 年(1865)年 | 英国留学の藩命下り、串木野より密出航、同年ロンドン大学に入学 |
| 慶応 2 年(1866)年 | 松木弘安(寺島宗則)と共に帰国 |
| 慶応 4 年(1868)年 | 加治木大砲隊監軍として鹿児島出發、戊辰戦争に参加 |
| 明治 2 年(1869)年 | 五稜郭陥落により、旧幕府軍降伏蝦夷地平定により、軍監を免ぜられる。 |
| 明治 4 年(1871)年 | 開拓使に採用、東京出張所在勤 |
| 明治 9 年(1876)年 | 麦酒醸造所北海道建設を促す稟議書を再提出、同年、麦酒・葡萄酒醸造所、札幌製糸所建設の指令が下る。麦酒醸造所開業式 |
| 明治 14 年(1881)年 | 開拓使を辞職、流浪の旅に出る。 |
| 明治 25 年(1892)年 | 神戸市において行路病人として救護を受け、同年死亡 享年 51 歳 |

彼の主な業績は、日本で初めて本格的なビール醸造を成功させたことであり、現在のサッポロビールの基礎を作り上げたことである。しかし、彼の人生を追っていくと、その節目ごとで歴史の大きなうねりの影響を受けているのが分かり、ビール醸造の業績にとどまらず、明治日本の近代化を分かりやすく体現している人物ではないかと考えた。それは具体的には以下の通りである。

- | | | |
|---|-----------------------|---|
| ア | 薩摩藩英国留学生として、英国へ留学 | 日本の国際社会参入期の先駆者 |
| イ | 戊辰戦争へ参加 | 日本の歴史の大転換期に直接かかわった。 |
| ウ | 北海道開拓にかかわり、麦酒醸造所建設に尽力 | 明治日本の富国強兵・殖産興業政策をビール醸造を通して具体化 |
| エ | 開拓使を辞職、流浪の旅に出る | 北海道官有物払い下げ事件の実態を知っての結果であり、近代化にともなって出てきた問題に一石を投じた。 |

上記のように村橋久成は歴史の動きから影響を受け、また彼自身も歴史に影響を与えた人物であることが分かった。そこで次のような学習の目標を立て、村橋久成の教材化を行った。

村橋久成の人生について調べてまとめていながら、教科書の基礎的・基本的な内容をおさえ、さらに薩摩藩英国留学生を中心に郷土の先人を知る。そして、村橋久成についてまとめた内容を発表し合った後、日本の近代化に郷土の先人たちが深くかかわっていたことに気付く。

6 単元の指導計画（総時間7時間）

時	主な学習活動と内容	指導上の留意点	評価の観点と郷土資料
1	<p>〔オリエンテーション〕</p> <p>(1) ペリー来航から、江戸幕府滅亡までの出来事を年表にまとめる。〔復習〕</p> <p>(2) 薩摩藩英国留学生(村橋久成)について、教師の説明を聞く。</p> <p>(3) グループをつくり、調べる内容を決め、共通の学習課題を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 幕末期の歴史の流れを、年表作成を通して、再確認させる。 幕末期の薩摩藩が果たした歴史的役割を、年表作成を通して理解させる。 薩摩藩英国留学生(村橋久成)が、日本の近代化にどのような影響をもたらしたのか、興味・関心をもたせるような説明をする。 調べ学習に必要な資料などを紹介し、生徒たちに意欲・関心をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 幕末から明治維新にかけての歴史の流れについて理解することができたか。(知識・理解) 幕末から明治維新にかけての歴史の流れを整理してまとめることができたか。(資料活用) 幕末の薩摩藩から出た人材に関心を持ち、学習課題を設定することができたか。 <p>(関心・意欲・態度) 資料 「薩摩藩英国留学生」</p> 
2	<p>〔新政府の出発〕</p> <p>(1) 五箇条の御誓文と五榜の掲示から、新政府のねらいを読みとる。</p> <p>(2) 版籍奉還と廃藩置県について調べ、二つの政策が行われたねらいについて考える。</p> <p>(3) 四民平等の内容を調べ、新しい身分制度ができたことを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 二つの資料を比較させ、新政府の政策に矛盾があったことに気付かせる。 二つの政策が、天皇中心の中央集権化を目指した政府のねらいの下に行われたことを理解させる。 資料から、鹿屋市が鹿児島県に属していなかったことに気付かせる。 資料から、鹿児島県の成立の様子を調べさせ、郷土への関心をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新政府の政策の矛盾的な面を、資料から読みとることができたか。(資料活用) 版籍奉還と廃藩置県について、そのねらいを的確に考察することができたか。(思考・判断) 資料から、当時の鹿屋市や鹿児島県の状況を読みとることができたか。(資料活用) <p>資料 「廃藩置県 当時の九州と鹿児島」</p> 
3	<p>〔富国強兵・殖産興業〕</p> <p>(1) 徴兵令や官営工場について知り、富国強兵の概念をとらえる。</p> <p>(2) 地租改正について調べ、そのねらいと影響について考える。</p> <p>(3) 地租改正によって得た財源によって、北海道の開拓がどのように行われたかを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 尚古集成館を紹介し、官営工場の模範となったことを理解させる。 地租改正によって、政府の財源が安定し、富国強兵の基礎となったことに気付かせる。 北海道の開拓が、鹿児島的人物によって行われたことを紹介し、その人物像に興味をもたせる。 <p>(主な郷土の先人) 村橋久成 黒田清隆</p>	<ul style="list-style-type: none"> 富国強兵や殖産興業の内容やねらいについて、理解することができたか。(知識・理解) 地租改正の内容やねらいについて、的確に考察することができたか。(思考・判断) 北海道を開拓した鹿児島の先人について、関心を持ち、意欲的に追究しようとしたか。(関心・意欲・態度) <p>資料 「黒田清隆」</p> 

時	主な学習活動と内容	指導上の留意点	評価の観点と郷土資料
4	<p>〔明治初期の外交〕</p> <p>(1) 岩倉使節団についての説明を聞き、不平等条約の内容について再確認する。</p> <p>(2) 歴史地図や資料から、領土画定の過程を調べ、明治初期の外交問題について考える。</p> <p>(3) 征韓論と、その結果について、教師の補説を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 使節団の目的が、条約改正の交渉と、欧米諸国の視察であったことを理解させる。 明治初期の外交において、寺島宗則が果たした役割について理解させ、その人物像に関心をもたせる。 欧米諸国とアジア諸国との外交政策の違いに気付かせる。 征韓論については、あまり深入りをしない。 <p>(主な郷土の先人) 寺島宗則</p>	<ul style="list-style-type: none"> 使節団の目的や結果について理解し、その知識を身に付けているか。(知識・理解) 明治初期の外交において、寺島宗則が果たした役割について、関心を高め、意欲的に追究しようとしているか。  <p>(関心・意欲・態度) 資料 「寺島宗則」</p>
5	<p>〔文明開化の時代〕</p> <p>(1) 明治初期の社会の様子を示す絵資料から、文明開化について知る。</p> <p>(2) 福沢諭吉の思想を調べ、当時の人々が受けた影響について考える。</p> <p>(3) 文明開化の様子を知り、当時の社会状況について、理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 明治初期の風俗を示す錦絵などの資料から、当時の社会の様子についてのイメージをもたせる。 福沢諭吉と関連させながら、森有礼を紹介し、当時の社会に与えた影響について考えさせる。 文明開化が、日本人の欧米文化中心の考え方を形成することにつながったことに気付かせる。 <p>(主な郷土の先人) 森有礼</p>	<ul style="list-style-type: none"> 絵資料から、当時の社会の様子について具体的なイメージをもつことができたか。(資料活用) 森有礼の果たした歴史的役割について関心を高め、意欲的に追究しようとしているか。(関心・意欲・態度) 文明開化が、日本人の思想にどのような影響をもたらしたかを的確に考察できたか。(思考・判断)  <p>資料 「森有礼」</p>
6	各グループごとに調べ学習のまとめと発表の練習をする。		
7	<p>〔まとめ〕</p> <p>(1) 自分たちが調べた内容について、発表する。〔ポスターセッション〕</p> <p>(2) 発表内容について質問や意見、感想を出し合う。</p> <p>(3) 調べた人物がどんな国づくりを目指していたかを話し合い、感想をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 調べた内容を持ち寄り、各グループで発表させて、学習課題を解決させるようにする。 自分たちの調べた内容を、他の発表内容と比較しながら、学習内容の深化を図らせる。 話し合いがスムーズに行われるような雰囲気づくりをする。 調べた人物について、補足説明をする。 本時と単元全体の自己評価をさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の先人を追究し、考察した内容をまとめ、発表することができたか。(思考・判断)(技能・表現) 自分の調べた内容と他の生徒の発表を比較し、学習内容の深化を図ることができたか。(知識・理解) 他のグループの発表の内容を、関心をもって捉えようとしたか。(関心・意欲・態度)

7 実証授業の実際と学習形態の工夫

(1) 単元全体の授業を通じた学習形態の工夫

調べ学習は、実施する上で何点かの問題が生じてくる。そこで今回の学習においては、問題対策としてジグソー学習を取り入れることにした。

調べ学習の問題点としては、次のようなことが挙げられる。

- ・ ただ調べた内容をまとめて発表し、終わるという形態に陥りやすい。
- ・ 一部の生徒に任せきりの状態になりやすい。
- ・ 生徒が意欲的に取り組むための資料の準備が必要である。

そこでジグソー学習を取り入れることによって、調べ学習の弊害を少しでもなくせるのではと想定し、右図のような方法をとった。

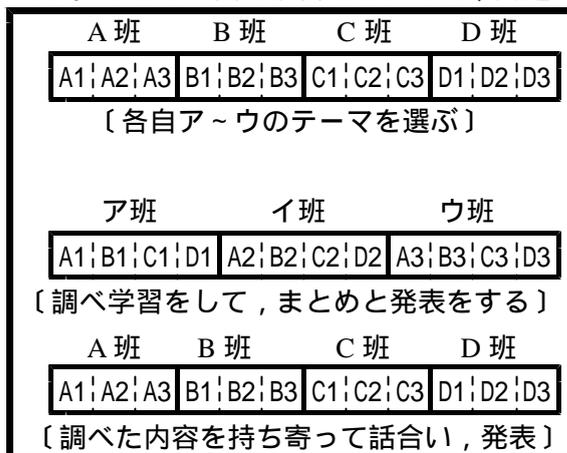


図 ジグソー学習の実際

追究	<p>最初の三人グループ（A班～D班）の中で、村橋久成について自分の関心のある学習課題を選ぶ。〔学習課題〕</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p>ア どのような生い立ちをした人か。</p> <p>イ なぜ、北海道でビールづくりを始めたのか。</p> <p>ウ ビール工場建設後の村橋は、どんな人生を送ったか。</p> </div>
深化	<p>同じテーマを選んだメンバーが集まって調べ学習に取り組み、まとめた内容をポスターセッションの形で発表する。</p> <p>（調べ方〔インターネット・資料など〕やまとめ方については、教師が補足説明をする。）</p>
共有	<p>発表が終わった後、最初のグループ（A～D）に戻って、それぞれが調べた内容を持ち寄って話し合いを行う。〔村橋久成が夢見た新しい日本とはどんな国であったかを考える。〕</p>

以上のような方法を行えば、生徒一人一人に調べ学習に対する自覚をもたせることができるのではないかと考えた。そこでこの方法に基づき、単元オリエンテーションの指導計画を作成した。

第1時 「単元オリエンテーション」(略案)

ア 本時の目標

- ・ 日本の近代化が行われていく中で、薩摩藩英国留学生在が果たした歴史的役割に興味・関心を持ち、調べ学習をしていくための適切な学習課題を立てることができる。

イ 本時の展開

過程	学習内容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導入 15分	<p>前単元の復習</p> <p>単元の学習課題の設定</p>	<p>ペリー来航から、江戸幕府滅亡までの出来事を、薩摩藩の動きを中心に歴史年表にまとめる。</p> <p>生麦事件、薩英戦争、薩長同盟</p> <p>本単元の学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>新しい国づくりにかかわった鹿児島の先人には、どのような人がいるか。</p> </div>	<p>幕末から明治維新にかけての歴史の流れを、再確認する。(資料活用)</p> <p>幕末期の薩摩藩が果たした歴史的役割を、年表作成を通して理解させる。(知識・理解)</p> <p>西郷や大久保以外にも、鹿児島出身者で、日本の近代化に貢献した人物が多いことに気付かせる。</p>
	教師の説明を聞く	幕末の薩摩藩英国留學生について、教師の説明を聞く。	TP資料や、絵写真などを用いながら、郷土の先人たちに興味・

展開 30分	グループ作りと、学習課題の設定	<p>留学生が派遣された時代背景(理由などを)を年表を使って復習する。</p> <p>個々のメンバーについての簡単な紹介をする。</p> <p>村橋久成について各自学習課題を決め、調べ学習のグループ作りをする。</p> <p>北海道の開拓にかかわった村橋久成は、どのような人物だったのだろう。</p> <p>(学習課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような生い立ちをした人か。 ・なぜ、北海道でビールづくりを始めたのか。 ・ビール工場建設後の村橋は、どんな人生を送ったか。 	<p>関心をもたせるようにする。</p> <p>薩摩藩英国留学生が、日本の近代化にどんな影響をもたらしたのか、興味・関心をもたせるような説明をする。</p> <p>調べ学習に必要な資料を紹介し、生徒たちに意欲・関心をもたせるようにする。(関心・意欲・態度)</p> <p>三人のグループの中で各自テーマを決め、グループをつくらせ調べ学習をさせていくようにする。</p>
終末 5分	評価	<p>次時の学習内容を確認した後、本時の自己評価をする。</p>	<p>本時の感想をまとめ、自分がどれだけ意欲的に参加できたかを、五段階で自己評価する。</p>

ウ 学習の評価

- ・幕末の薩摩藩から出た人材に興味・関心をもち、学習課題を設定できたか。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・幕末から明治維新にかけての歴史の流れを、整理してまとめることができたか。
(資料活用の技能・表現)
- ・幕末から明治維新にかけての歴史の流れについて、理解することができたか。
(社会的事象についての知識・理解)

(2) 「単元オリエンテーション」を終えた後の生徒の感想

授業後に生徒たちに感想を書かせたところ、以下のような回答が返ってきた。

(生徒A)

鹿児島には他に母国のためにたくさん活躍する人がいたのに、(私達ぐらいの子供まで...) すごいと思った。

(生徒B)

鹿児島にもいろんな種類の人がいるんだなあと思った。

(生徒C)

前A先生の授業とはちがうやり方で勉強することになってびっくりした。グループで話し合いをしたり(7.ハッピーヤリ)やすかった。

(生徒D)

鹿児島に生まれたのは、サッカーボールを作ったのがよかった。

資料 授業を終えた感想(感想と自己評価カードより)

生徒A, Bの二人は, 薩摩藩英国留学生についての感想を書いたと思われる。単元オリエンテーションでは村橋久成以外の留学生を何人が紹介した。その結果, 生徒たちも郷土の先人たちに何らかの興味・関心をもったものと推察される。

生徒C, Dの二人は, 学習の形態と村橋に関する疑問を書いている。今回初めて取り組んだジグソー学習については, 上記の感想のように驚きを感じた生徒が多かったようだが, 「けっこうやりやすかった」「楽しかった」など全体的に反応は上々であった。また, 村橋に関する疑問を書いた生徒は, 他の生徒に比べて調べ学習に対する取組み状況が良好な様子が見られた。

この授業を実施した2年生は12人と少ない学級ではあるが, 比較的学習に対する意欲は高い学級である。しかしその一方で, 前述の実態調査でも示した通り, 郷土に関する興味・関心はあまり高い方ではなかった。したがってこのような感想は, 単元最初の授業後の感想としては私の予想以上の好結果であり, 今後この学級の生徒たちに最初の意欲をいかに継続させるかが課題として考えられたが, 結果的にはどの生徒も最後まで意欲的に学習に参加できていた。

(3) 単元のまとめとなる授業の指導展開

第7時 「学習課題の解決と学習内容のまとめ」

ア 本時の目標

郷土の先人を追究し, 考察した内容をまとめ, 発表することができる。

自分の調べた内容と他の生徒の発表を併せて整理しながら, 意見を発表し合うことによって, 学習内容の深化を図ることができる。

郷土の先人の学習を通して, 郷土, または歴史の学習に興味・関心をもち, 自発的に追究していこうとする態度を身に付けることができる。

イ 本時の展開

過程・時間	形態	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料	評 価 の 観 点
導入 5分	一斉	1 前時に学習した内容を復習する。 2 本時の学習課題を設定する。 ----- 新しい国づくりにかかわった鹿児島県の先人について, 調べたことを発表し, まとめよう。	前時の学習の重要事項を, 小テストで確認する。 本単元の学習課題を想起させた後, 本時の学習課題を設定する。 (単元の学習課題) 新しい国づくりにかかわった鹿児島県の先人には, どのような人がいるか。	確認 テスト	前時の学習内容が, おさえられているか。 (知識・理解)
展開 10分	グループ	3 自分たちが調べた内容を持ち寄り, 各グループごとに発表した後, 相互評価をする。 《郷土の先人 村橋久成》 どのような生い立ちをした人か。 なぜ, 北海道でビールづくりを始めたのか。 ビール工場建設後は, どのような人生を送ったか。	計三組の発表によるポスターセッションを行う形で, 発表させる。 発表時間は三分程度とし, 練習も各自させておくようにする。	村橋の写真 (TPシート) 発表資料 (広幅用紙 TPシートなど)	自分たちが調べて追究した結果を, 報告ができたか。 (資料活用)

10分	個 グループ	4 村橋久成について，質問や意見，感想をまとめて，発表する。	まとめやすいようにワークシートを用意しておく。	ワークシート	村橋久成の生き方について多面的に考察できたか。 (思考・判断)
10分	グループ	5 薩摩藩英国留学生について学習した内容を整理し，彼らが目指した新しい日本とはどのような国だったのかを話し合い，発表する。 (予想) 欧米諸国に負けないような，強くて豊かな日本	各グループの意見を尊重させる。 薩摩藩英国留学生を通して，明治政府が目指した新国家像について考察させる。 彼らの目指した新国家の問題点についても目を向けさせる。	留学生の業績を整理した TP シート	薩摩藩英国留学生を通して，明治国家の在り方を追究することができたか。(思考・判断)
5分	一斉	6 村橋久成が，現在の北海道や鹿児島の人々にどのように受け止められているかを知る。 ・VTR視聴 (村橋を通じた，北海道と鹿児島の交流のニュース)	鹿児島の先人が，他地域の人々や郷土の人々に，現在でもなお影響を与えていることに気付かせる。	VTR	VTRの映像を興味・関心をもって，視聴することができたか。 (関心・意欲・態度)
終末 10分	個	7 本時の学習の感想をまとめて，自己評価をする。 8 本単元の学習の感想をまとめて，自己評価をする。	本時の学習内容と，本単元の学習全体の感想をまとめさせ，自己評価をさせる。 時間内に終わらない生徒については，次時までの課題とする。	自己評価シート	学習内容の感想を整理してまとめることができたか。 (資料活用) 郷土の先人を通して，歴史に興味・関心をもち，さらに追究していこうとする態度を身に付けることができたか。(関心・意欲・態度)

ウ 学習の評価

- 郷土の先人を追究し，考察した内容をまとめ，発表することができたか。
(社会的な思考判断)(資料活用の技能・表現)
- 自分の調べた内容と他の生徒の発表をあわせて整理しながら，意見を発表し合うことによって，学習内容の深化を図ることができたか。(社会的事象についての知識・理解)
- 郷土の先人の学習を通して，郷土，または歴史の学習全体に興味・関心をもち，自発的に追究していこうとする態度を身に付けることができたか。(社会的事象への関心・意欲・態度)

8 生徒の課題追究と授業を終えた感想

(Aグループ)

新しい日本は、
アメリカイギリスなどに匹敵して、
近代化を進めるための
先進 国にしたい。

でも、そこには問題点はなかったか？

(Bグループ)

新しい日本は、
富強 強兵 殖産 興業!!

国にしたい。

でも、そこには問題点はなかったか？
*殖産 興業ができれば、富強 強兵も
*不平等条約の修正ができる。

(Cグループ)

新しい日本は、
発展した 国にしたい。

でも、そこには問題点はなかったか？
*経済的にまだ進んでいない。

吉原、増田、高野

資料 各グループの課題追究の結果の例 (TP)

上の資料は、調べ学習の発表が終わった後に最初のグループに戻って話し合い、課題追究をしてまとめた結果の例である。生徒たちはおおむね、薩摩藩英国留学生を通して明治政府の国家像をとらえることができたようであった。ただし、明治政府の問題点の追究については、AグループとB・Cのグループとでは迫り方に差が見られた。以下は、単元の授業を終えた後の生徒の感想である。

(生徒A)

○グループでの調べ学習が、とても楽しかった。
○TPでの発表が、おもしろかった。

(生徒B)

○すごくよく知れた！
○明治の新しいこともよく知れた。
・つまり、人はすごく重要なことをしていたんだ。

資料 単元を通しての感想

全体的に多かった感想は、生徒Aのような学習形態についてのものや、生徒Bのような郷土の先人の業績についてのものであった。郷土の先人についての感想を他に挙げてみると、

- ・ 鹿児島県の先人は、日本の歴史にすごいかわりをもっているんだということが分かった。
- ・ 鹿児島の人ってすごいと思った。
- ・ 鹿児島県の先人のことがいろいろと分かった。
- ・ 鹿児島には、たくさん国を富国にするために活躍した人がいるんだなと思った。

以上のようなものであり、生徒たちが郷土鹿児島について今までとは少し違った見方をしている感じが感じられた。また、授業実施前のアンケートでは郷土を知ることあまり意欲を示さなかった生徒が、今回の学習を終えた後には、「郷土鹿児島についてもっと知りたい」と答えたケースが多く見られた。このことから、村橋久成を扱った歴史授業によって、生徒たちに郷土に対する興味・関心をもたせるきっかけづくりができたのではないかと考えている。

